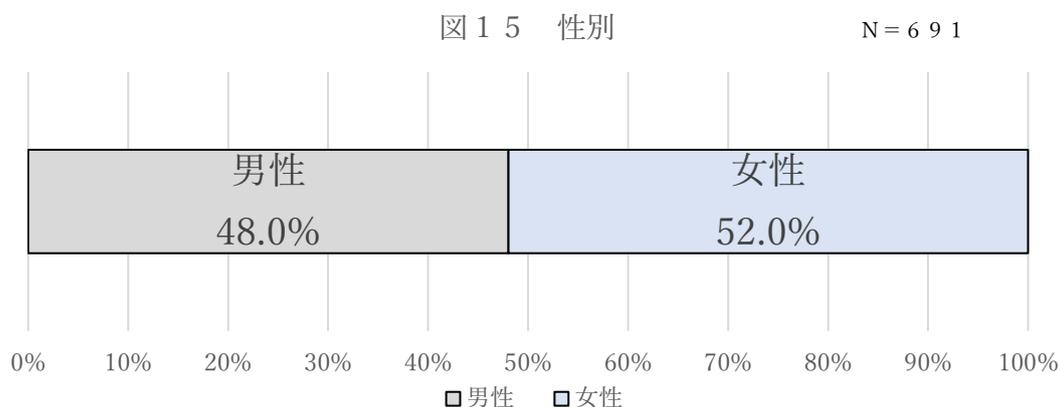


## 第3章 調査結果(患者調査)

### 1 がん患者自身のことについて

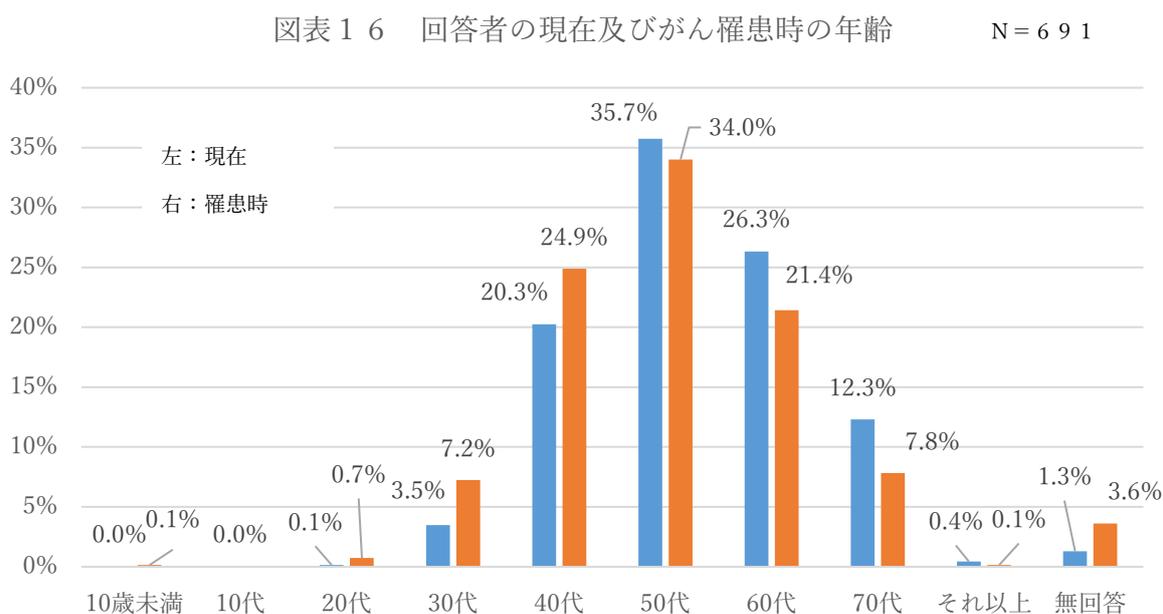
#### (1) (問1)回答者の性別

回答者の性別は、ほぼ同じ割合であった。



#### (2) (問2)年齢

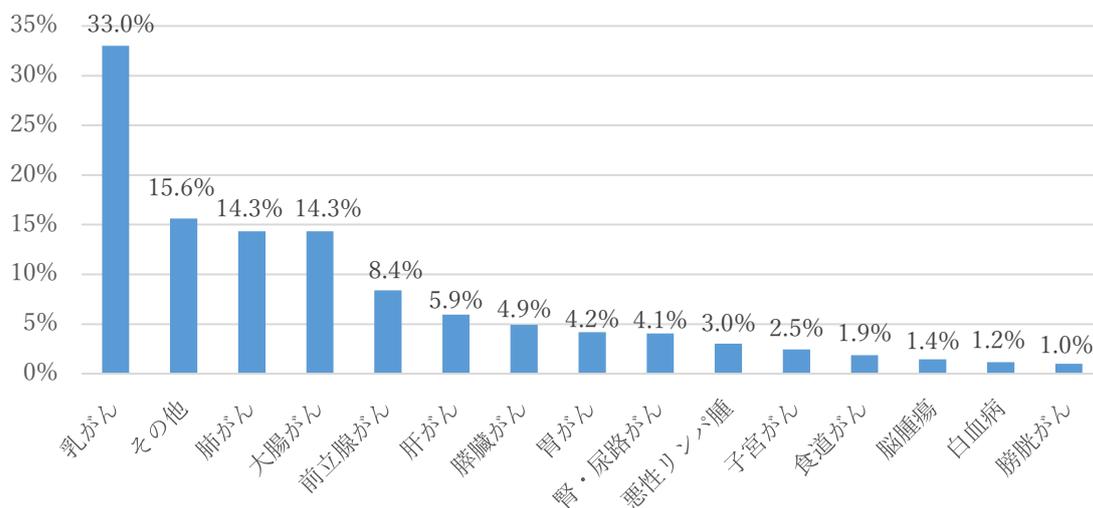
回答者の現在及びがん罹患時の年代はともに、50代が最も多かった。



### (3) (問3)現在、治療中のがんと過去治療していたがんの種類

乳がんが、33.0%で最も多かった。

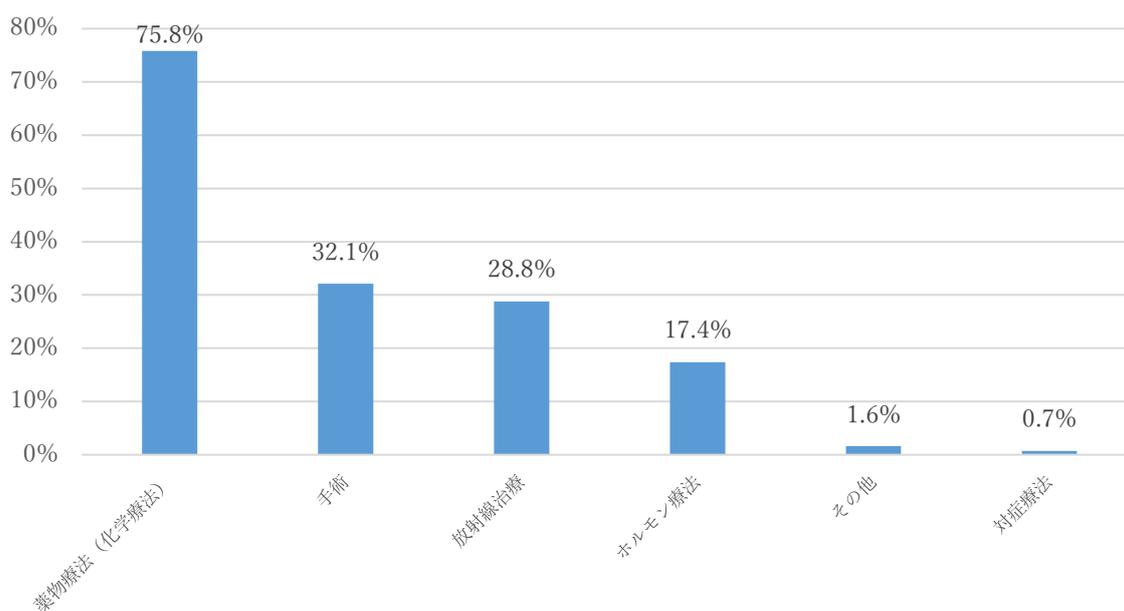
図17 治療している／していたがん種（複数回答） N = 691



### (4) (問4)現在のがん治療の内容

薬物療法（化学療法）を受療している患者が最も多く、75.8%であった。

図18 現在のがん治療内容（複数回答） N = 691



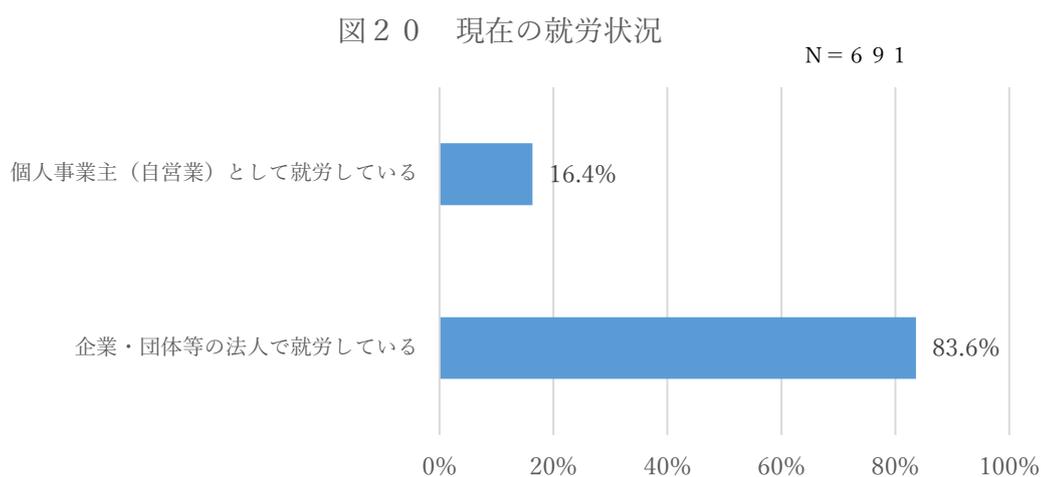
### (5) (問5)最近の受診頻度

受診頻度は、「月一回以上」が最も多く、87.0%であった。



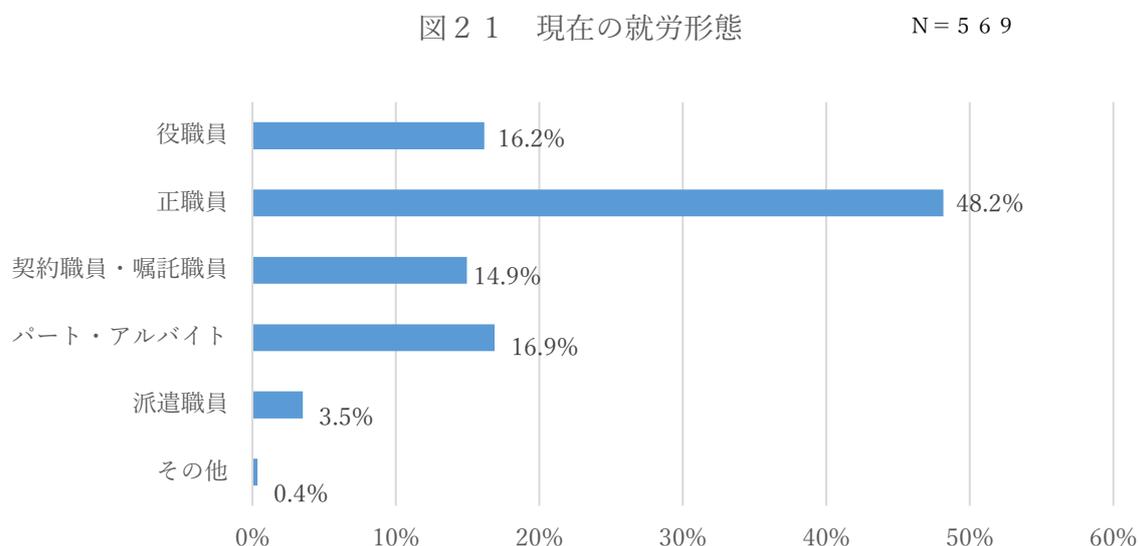
### (6) (問6-1)現在の就労状況

「企業・団体等の法人で就労している」が、83.6%と多かった。



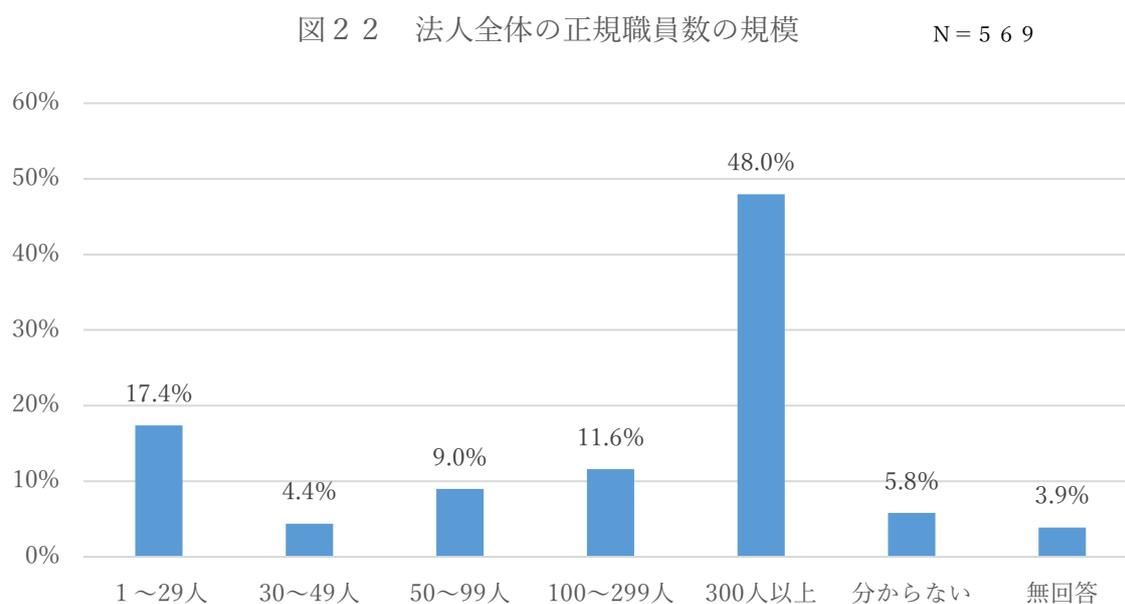
### (7) (問6-2)現在の就労形態

<問6-1で「企業・団体等の法人で就労している」と回答した者への質問>  
現在の就労形態は、「正職員」が最も多く、48.2%であった。



### (8) (問6-3)現在就労している法人全体の正規職員数の規模

<問6-1で「企業・団体等の法人で就労している」と回答した者への質問>  
法人全体の正規職員数の規模は、「300人以上」が最も多く、48.0%であった。



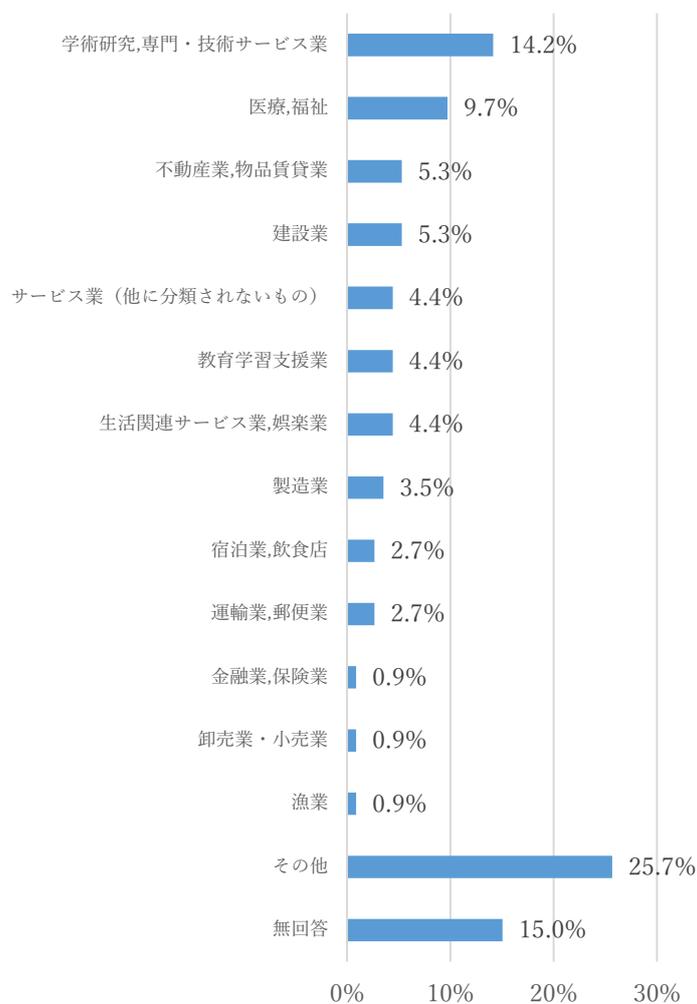
## (9) (問7) 業種(主な事業内容)

<問6-1で「個人事業主(自営業)として就労していると回答した者への質問>

「その他」を除くと、「学術研究、専門・技術サービス業」が最も多く(14.2%)、次いで、「医療、福祉」(9.7%)、「不動産業、物品賃貸業」「建設業」(5.3%)となった。

※ 本問については、主な事業内容を自由記載にて、回答してもらい、事務局にて業種ごとに分類を行った。

図23 業種 N=113

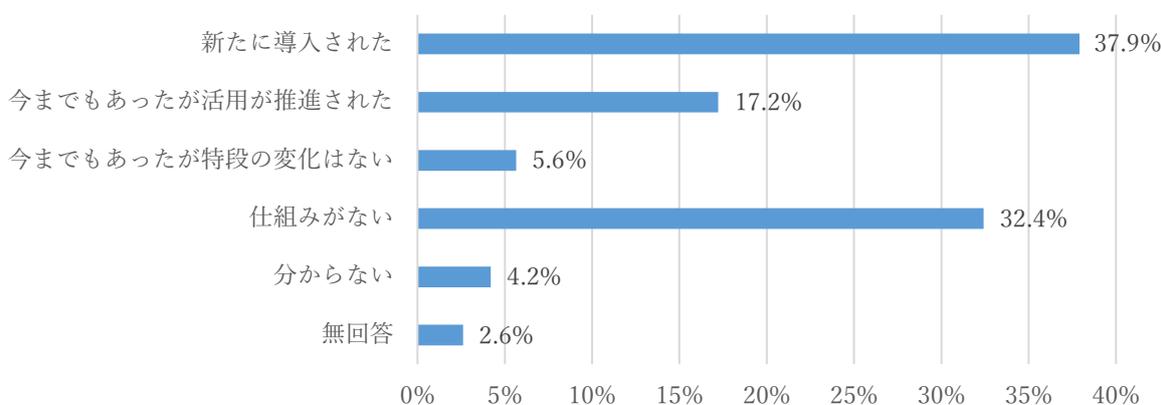


## 2 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う変化

(1) (問8-1)新型コロナウイルス感染症の感染拡大後、職場において、テレワーク(在宅勤務制度)・時差出勤制度・フレックスタイム制度等の柔軟な働き方が導入・推進されるなどの変化がありましたか。

患者の職場での柔軟な働き方の導入・推進されるなどの変化の状況については、「新たに導入された」が最も多く(37.9%)、次いで「仕組みがない」が32.4%であった。

図24 柔軟な働き方の導入・推進 N=691

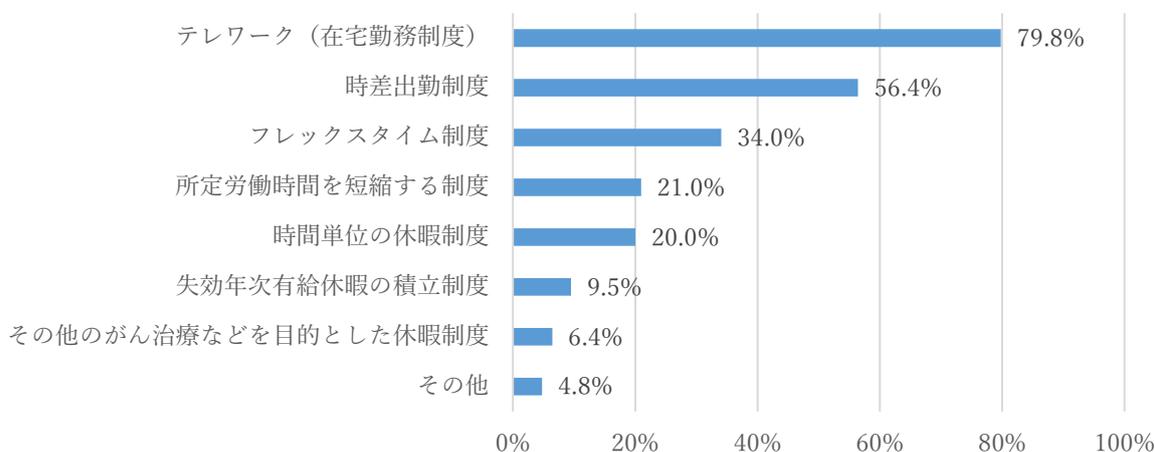


(2) (問8-2)どのような制度等がありますか。

<問8-1で「新たに導入された」「今までもあったが活用が推進された」「今までもあったが特段の変化はない」と回答した者への質問>

柔軟な働き方の、職場にある制度としては、「テレワーク(在宅勤務制度)」が最も多く(79.8%)、次いで「時差出勤制度」が56.4%であった。

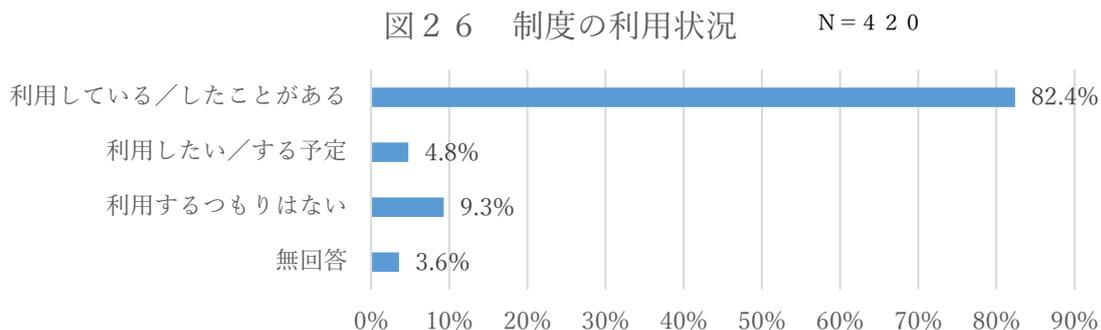
図25 柔軟な働き方の制度(複数回答) N=420



**(3) (問8-3-1)その制度等を利用していますか。**

<問8-1で「新たに導入された」「今までもあったが活用が推進された」「今までもあったが特段の変化はない」と回答した者への質問>

柔軟な働き方の制度の利用状況は、「利用している／したことがある」が最も多く、82.4%であった。



**(4) (問8-3-2)利用したことで治療などの療養生活や働き方に影響を及ぼしましたか。**

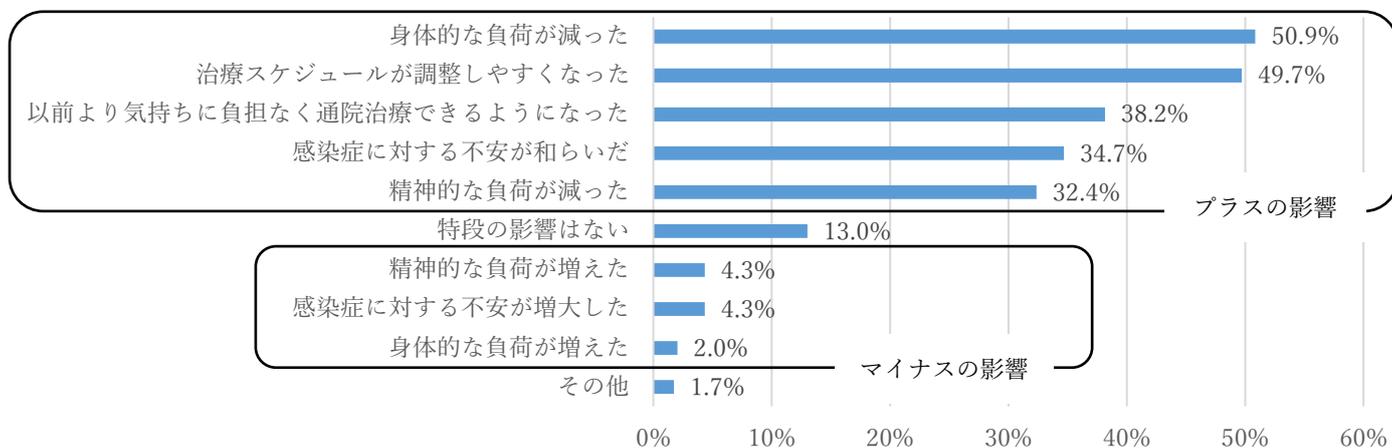
**【治療などの療養生活】**

<問8-3-1で「利用している／したことがある」と回答した者への質問>

柔軟な働き方の利用による治療などの療養生活への影響としては、プラスの影響を回答した割合が高く、約30%~50%であった。項目別にみると、「身体的な負荷が減った」と回答した者が最も多く50.9%、「治療スケジュールが調整しやすくなった」が続き、49.7%であった。

一方、マイナスの影響については、いずれも約2%~4%であった。項目別にみると、「精神的な負荷が増えた」「感染症に対する不安が増大した」が最も多く各々4.3%であった。

図27 療養生活への影響（複数回答） N=346



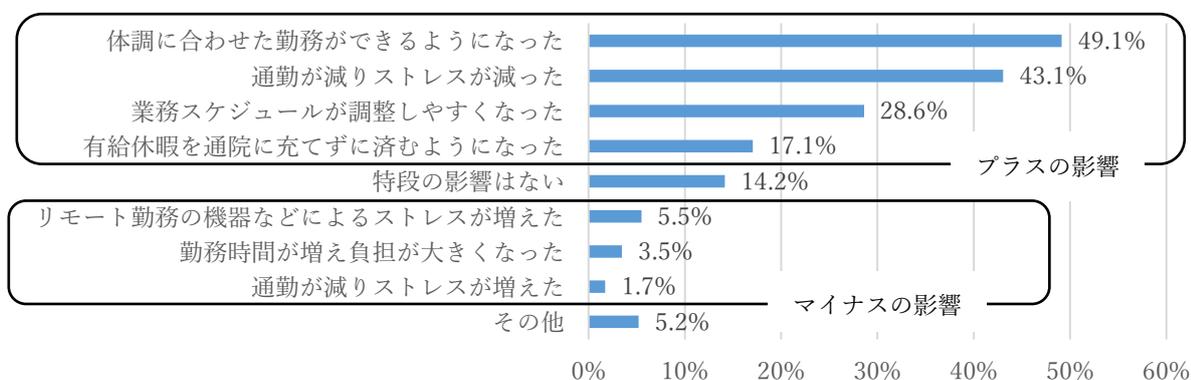
## 【働き方】

<問8-3-1で「利用している／したことがある」と回答した者への質問>

柔軟な働き方の利用による、働き方への影響として、プラスの項目の割合が高く、約20%～50%であった。項目別にみると、「体調に合わせた勤務ができるようになった」と回答した者が最も多く49.1%、「通勤が減りストレスが減った」が続き、43.1%であった。

一方、マイナスの項目は約2%～5%であった。項目別にみると、「リモート勤務の機器などによるストレスが増えた」が5.5%、「勤務時間が増え負担が大きくなった」が3.5%であった。

図28 (柔軟な働き方の) 働き方への影響 (複数回答) N=346

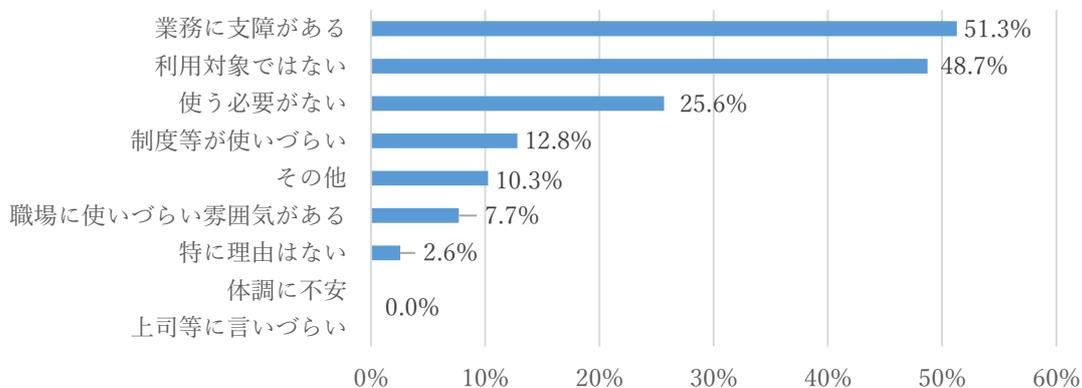


### (5) (問8-3-3)それはなぜですか。

<問8-3-1で「利用するつもりはない」と回答した者への質問>

制度を利用しない理由として、「業務に支障がある」と回答した者が最も多く(51.3%)、「利用対象でない」が続き、48.7%であった。

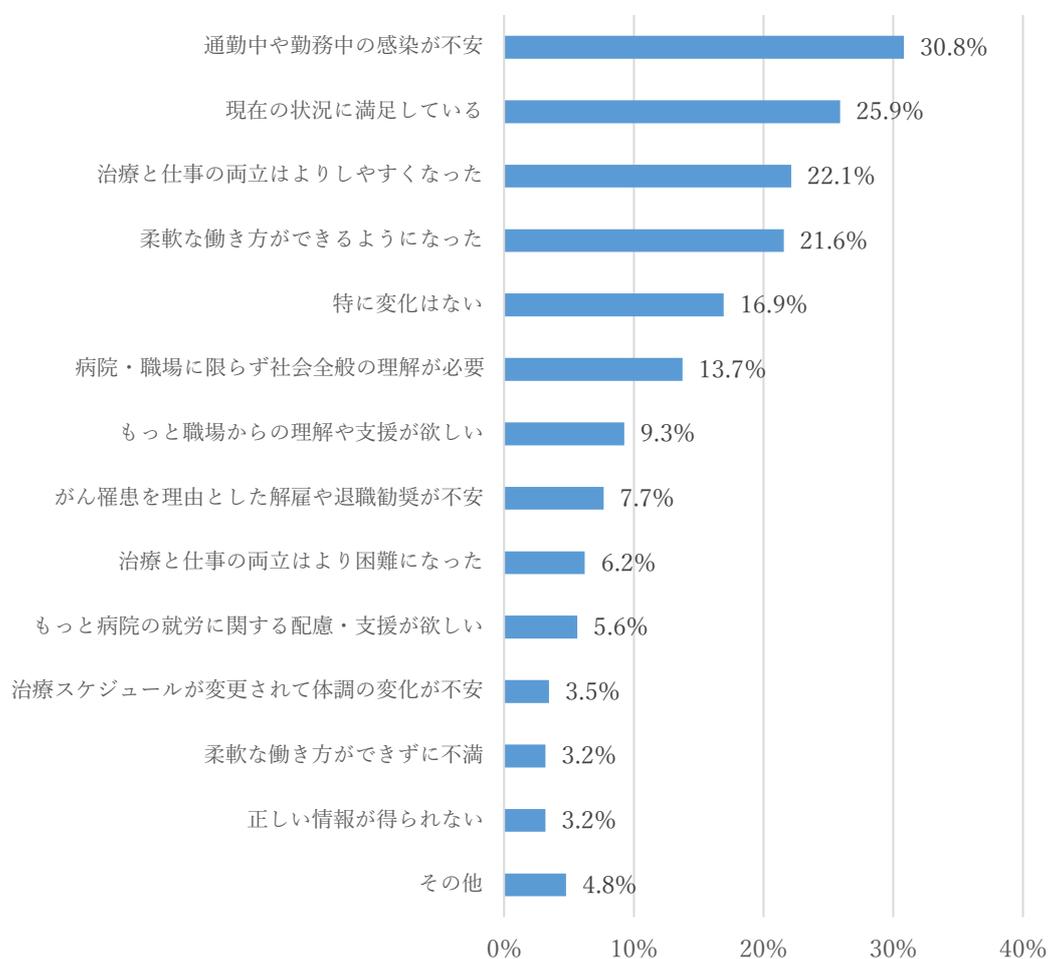
図29 制度を利用しない理由 (複数回答) N=62



**(6) (問9)新型コロナウイルス感染症の感染拡大後、治療などの療養生活や働き方について  
考え方や気持ちの変化はありましたか。**

新型コロナウイルス感染症の感染拡大後の療養生活や働き方についての考え方や気持ちの変化については、「通勤中や勤務中の感染が不安」が最も多く（30.8%）、次いで「現在の状況に満足している」（25.9%）、「治療と仕事の両立はよりしやすくなった」（22.1%）、「柔軟な働き方ができるようになった」（21.6%）が続いた。

図30 考え方や気持ちの変化（複数回答） N = 691



## (7) (問10)新型コロナウイルス感染症の感染拡大後、がん治療と仕事の両立についての良い影響や悪い影響(自由記載)

### (両立への良い影響)

- ・再発時期がコロナと同時期でしたので、一気に環境が変わった。分散勤務もあり勤務もなくなり色々と楽になった。リモートで情報共有もできている。
- ・在宅勤務と時差出勤が職場で広く推進されたタイミングで治療開始となり、両立が可能になったと考えている。抵抗力が下がる時期でもあり、社会全体に手洗いマスク消毒が広まっていることもプラス材料
- ・病院は予約ある人のみで空いていたことがあり、良かった。通勤電車ストレスなくなったが、通院のための電車が混みあうので、ややストレスあり。在宅勤務のため、休息休憩がとりやすくて良い。
- ・通院してから入社となると、気が重いですが、テレワークできるから仕事が続いていると思う。テレワークでなければ私は子供も小さいので、おそらく辞めていたと思う(体力的、精神的に大変だと思うから)。
- ・仕事の時間が少し減り生活にゆとりができた。
- ・取引先との交渉の際、直接面談でなく、間接的な電話・テレビ会議等を提案しやすくなったのは良い影響である。
- ・職場が密を避けるために時差通勤などをしてくれていたおかげで、毎朝放射線治療を受けてから遅れて入社することに全く問題がなかった。
- ・コロナ禍でリモートでの仕事をするのができ、がん治療も専念できている。
- ・コロナ→在宅(100%)になっていなければ、今の治療をしながら通勤は難しく、休職または退職していたかも(今まではテレワークはなかったのだ)
- ・在宅勤務が導入されて、全職員でローテーション勤務となったため、がん治療という理由でも申請しやすくなった。
- ・放射線治療時間帯が希望通り、組み入れてもらい、満足している。
- ・テレワークが常態化してきたので、がん治療を受けながら仕事を続けやすくなった。テレワークの環境も整いつつあり、入社した場合と同じくらいの内容の作業ができるようになった(コロナ以前は、テレワークの作業内容は限定されていた)。
- ・テレワークが導入された事は仕事を継続する上で非常に良かった。
- ・仕事に対しては在宅により以前より良くなった。
- ・在宅勤務が一般的になったことで、会社に行かずに、これまで通りの仕事ができるようになった。抜毛や体重減少など、見た目の変化を人に見せずに(=人に気を使わず)可能。採血等の通院も行きやすい。
- ・化学療法により免疫低下しているが、コロナ対策のためのテレワーク推進で在宅勤務ができるので、かえってよかった。
- ・テレワークの一般化は、会議等の利便性向上につながった。

- ・リモート会議が一般的になり、入院中も病室から参加できるようになった。体調に問題なければ、在宅勤務と同様に取り扱ってもらえる。
- ・テレワークなら、通勤等でのコロナウイルス感染が不安だったが減少した。
- ・zoom 等オンラインでのミーティングが常識になったことは好影響でした。
- ・時短営業時間などで体に負担なく、また、通勤時間が通常とズレているので、座って通勤でき身体が楽、また、社内において、ウイルスに対する守りの環境を作っていることが嬉しい！
- ・新型コロナウイルス感染症により、テレワーク、時差出勤が会社に導入された。放射線治療で 28 日間連続通院の必要ができたが、テレワーク、時差出勤制度も利用させてもらったので、有給を無駄に使わず済んだ。コロナがなければ、有給も足りず、両立（仕事）が難しかったと思う。
- ・コロナによって、社会的にテレワークが当然となり、がん治療と仕事の両立は非常にしやすくなった。がん患者にとって社会は良い方向に変化したと感じる。

### （両立への悪い影響）

- ・私傷病休暇制度はあるが 3 カ月程度のもので、がん治療の期間とは見合わず結局退職せざるを得ない。（テレワークは導入されたが部署の業務特性上 PC で行う業務が少ない）有休も組み合わせてやりくりしているが、評価は望めないためおのずと所得も下がる。
- ・コロナによる就労環境の悪化。そして、がん治療者の就労意欲の減少がある。
- ・がん治療の大変さ（特に抗がん剤）を会社がなかなか理解してくれない。コロナ拡大後は、抗がん剤治療中はテレワークを強く推奨に変わったが「何故か？」という点において理解していない人が多い（推奨に対して）。
- ・リモートワークだと外に出ないのでメリハリがなく、病気のことを考える時間が増えた。より不安になる。
- ・がん治療で免疫が低下しているだろうと配慮してもらうのはありがたいが、不要な時もあり正しい知識が必要と感じる。
- ・がん治療中の立場からコロナウイルス感染リスクが心配だが、職場の感染症対策が不十分と感じると仕事に集中できない不自由さを感じる。
- ・治療による免疫力の低下の中、感染への不安を抱え仕事を続けていくか、不安と迷いがあった。また、治療を優先することで経済的不安が大きい。
- ・新型コロナウイルス対策が不十分と考えられる職場で治療しながら働くことに不安があるが、立場的に弱い（パート、病気入院で長期休みをいただいた）ので何も言えず、不安なまま働いている。
- ・3 週間に 1 度の通院をしているため有休がなく、欠勤となり給与が下がってしまっている。
- ・通勤、通院時に使用する公共交通機関での感染の可能性について不安が高まった（交通機関の使用頻度が高まることによる）。

- ・自宅にネット環境がないとテレワーク勤務者は8H/日と決められているため、出勤者への業務負担が増えている。テレワークの推奨は一部の人の負担軽減にしかなくなっていないと思う。
- ・浮腫の治療を検討しているが、仕事が忙しくなる予定で治療計画がたてづらい。
- ・感染が怖くて休んでも社員の様に給料は出ない。(パート)
- ・化学療法中の状態での新型コロナに対する免疫が相当落ちているのではないかと両立する場合不安
- ・コロナの影響でテレワークを進めると建前上言うが、職場上司の考え方は古いままで出勤しないとならない雰囲気です。辞めなければいけないのかと思った。
- ・良い影響は何もない。がん治療をしていることを基礎疾患ととらえていない。テレワークも申請して実施する状態
- ・仕事は健康なときと変わらず、欠席や早退もしていない。しかし、研修参加などの対象からは外されてしまった。
- ・悪い点：ワクチン接種のスケジュール不明。通勤時の混雑が不安で出社できない。
- ・抗がん剤による免疫力の低下があり、新型コロナ感染に敏感にならざるを得ず、やや仕事にマイナスになる。
- ・感染は不安だったが、仕事を辞めるわけにはいかないもので、何とか通勤しています。がん治療ということで、今後が見通せないこともあり、職場での位置は悪くなった。仕事も減り、給料の手当でもなくなってしまった。
- ・現在休職中。復職を考える際、体調と意欲が大切ですが、「コロナ感染の不安」が「無理するな・・・」等、職場からと本人の意欲にブレーキをかけてしまう。
- ・会社に、抗がん剤治療しながら働きたいと言ったら、前例がないので無理と言われた。
- ・抗がん剤による免疫低下に対し、慎重にならざるを得ない事態となった。コロナがなければ、抗がん剤治療中に休職を選ばなかったと思う。
- ・通勤や就労中に感染しないか不安が大きくなった。免疫力が低下する中、医療関係の仕事をする事自体がリスクが高い、不安も大きい。

#### **(両立への良い／悪い影響の両面)**

- ・コロナを理由にテレワークへの理解が得られ、大変助かっている。テレワークにより仕事の調整がしやすくなり毎日の通院も無理なく続けられている。悪い点については通勤・出勤による感染防止が大変なこと
- ・良かった点は、テレワークがしやすくなったところ。世間が病気の人や社会的弱者と呼ばれる人に目を向けるようになったところ。SNSでの講座、交流会が活発になったところ。悪い点は感染予防のため外出しづらいところ
- ・数日前に申請しないとダメだったテレワークがやむを得ない場合は当日申請可となった。フレックスの時間変更も3日前までと制度が使いやすくなったので、診療スケジュール等に合わせ、調整がしやすくなった。ただ、出勤しないとできない仕事は必ずあるので、免疫が下がっているときの通勤は不安だった。

- ・テレワークの期間中の手術と治療で、テレワークの解除後の対応について不安がある。逆にテレワーク期間を利用しての積極的な治療を行ってきた。
- ・テレワークや時差通勤が増えた結果、通勤電車の混雑は減って楽にはなったが、治療で体調が悪い時、立っているのが辛いので、ヘルプマークをかばんに付けているが、一度も席を譲ってもらえたことはない。せつかくこのような制度があるのだから、もっとPRするべきと思う。
- ・リモート勤務導入により通院が目立つことなく、精神的負担は解消された。たまたま、こういう状況だからラッキーだけど、普通なら時差勤務や治療していることを周囲に理解してもらうことが難しいのでストレスだった。
- ・リモートなので通院や体調でやりきれない仕事を休日にこなしている。なるべく両立したいので、自分としては良いのだが、結果的に「いつも通り働いている」状態になり、会社が忙しい時、今までと同じく仕事を振り分けられるとしんどい場合もある。基本的に理解のある職場なので見えていれば、配慮してもらえと思うが、あまり、いまいち具合が良くないなど報告しづらいので、お互い様子がわからなくて・・・の部分がある。
- ・在宅ワークができて良かったが、コロナウイルスの状況が落ち着いた後、また元通りの入社メインの世の中になりそうな気がする（少なくとも私の職場では）。制度が引き続き使い易いと嬉しい。

#### **(新型コロナウイルス感染症による負担や不安)**

- ・入院時にその都度 PCR 検査が必要となった。病気による発熱であっても、発熱外来で長時間の待機を余儀なくされ、体調的に辛かった。
- ・通勤時のコロナ感染のリスクが高まったため、がん治療に影響が出る恐れがある。
- ・抗がん剤治療中のため感染しないようにと注意しているが、周りの人たちから異常に心配されている。心配はありがたいが、心配されすぎると少しつらい。
- ・体調が悪い事を理由に休むと言うと、コロナ感染を疑われると感じ、言えない。
- ・化学療法により白血球が減って、感染しやすい体質となってしまう、行動が制限された。
- ・通院治療（週1回）なので、コロナ下でなければ、就労可能だと言われましたが、仕事は休むように、と医者に言われ、納得しています。本当は働きたかったけどコロナ下なので仕方ないです。
- ・病院内の治療スケジュールが組みにくいようです。CT や MRI の予約が取りにくい。
- ・コロナにより予定していた治療が延期になった。放射線は毎日のため、コロナに感染しないように注意が必要となった。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により、治療スケジュールが遅れへとなった。移植の入院時期が遅れた。
- ・抗がん剤治療中で免疫理力が低下しているのでコロナに感染するのではと不安ある。ワクチン接種も受けていいのか迷っている。

- ・がん治療の副作用がある中でワクチン接種して体がもたないと思う。
- ・抗がん剤を行うことで免疫力が下がる。それによりコロナの感染してしまうことは怖い。
- ・治療はスケジュール通りに進めているが、職場ではコロナ感染を心配されて治療の延期や中断をすすめられた。予定通りに治療をすすめることを理解してもらうことが大変だった。
- ・新型コロナウイルスの流行で、入院でのがん治療ができなくなり、通院治療になってしまった。
- ・コロナのため、転院や治療の開始が遅れてしまったため、後遺症が残ってしまった。
- ・緊急事態宣言が解除されてから通勤の電車が混雑していて怖い。テレワークができる会社は引き続きやってほしい。
- ・今後免疫力が下がるのか、下がった場合、今までの感染対策で十分なのか心配。現在の職場がコロナ患者受け入れの病棟のため異動や退職をすすめられるのではと不安もあるが、それ以前に仕事に復帰できるか心配
- ・コロナウイルスにかかるのが怖いので、病院行くのを控えようと思った時がある。
- ・がん治療に伴い、新型コロナウイルスのワクチン接種はしない方が良いと言われた。常にマスクをし、人ごみの中に入らず注意している。
- ・治療の為、白血球数も下がっているので感染しないよう、予防も大変で、精神的にきつい。
- ・職場よりマスク、手袋、消毒アルコール等々の支給があり、それ自体は安心であるが、人との接触等コロナウイルスが感染しないかどうか心配だった。
- ・がん治療に病院に行くのがコロナのことで大変不安を感じる。
- ・コロナにかかった場合、治療ができなくなる心配は常にある。しかし、働いていることはとても有意義で人生の支えとなるので、続けたいと思う。
- ・自分自身がコロナに感染すると治療が継続できなくなるため、通院、通勤の際に、特に不安になる。
- ・化学療法のためワクチンがうてなく仕事復帰が出来ず、退職することになった。
- ・抗がん剤の副作用と新型コロナの症状が似ているので、発症した時の対応が不安

### **(経済的な不安)**

- ・がん治療と仕事を両立している人には援助金を出してほしい。給料は下がるし負担が一人暮らしには大きすぎる。
- ・職種と通勤に係る時間や経路（駅、乗り物等）が、感染リスクが高いため、休職及び退職を主治医よりすすめられ、現在収入源で少し困っている。
- ・コロナの影響で収入が減っても会社員には給付金がなく生活、治療費も負担が大きく、不公平さに憤慨している。体がキツくても働くしかない。

## (その他)

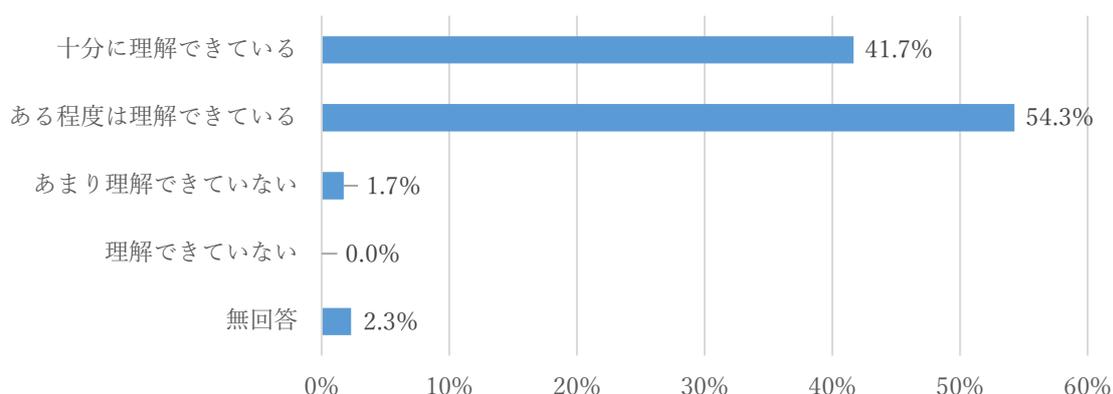
- ・がんに対する偏見を感じた。社内で公表はしないように上から指導があったが、見た目（特に脱毛）が変わっても他の病名（聞かれたら）を伝えなくてはならなかった。
- ・病院でのコロナ感染が心配であったが、コロナ期間だという理由で患者が少し治療優先でいけるので精神的に楽になった。
- ・主治医に自分の仕事内容を理解してもらっていたこと、上司や同僚に病状や治療計画を理解してもらえたこと、がん看護専門看護師に相談・アドバイスを適宜もらえたことも良い影響となった。
- ・体調に変化なくホルモン療法を続けられているので、検査がない時（処方のみの場合）は電話診療もしくは近医で診療してもらえるとよい。
- ・コロナの影響で皆さんがマスクを着けていて、色々な場所に消毒液があり、免疫力が落ちている私達にとって、とてもありがたい。コロナ感染もそうだが、それ以外の感染リスクがあるので、皆さんが予防してくれている、今の方が安心感がある気がする。
- ・以前は、インフルエンザ等の感染におびえながら治療をしていた。しかし、今は社会全体で感染対策をしているので、生活しやすくなった。

### 3 患者の自身の病状等の理解

#### (1) (問11)御自身の病状や見通し、治療スケジュール等について、十分に理解できていると思いますか。

患者の自身の病状等に係る理解状況については、「ある程度理解できている」が54.3%、「十分に理解できている」が41.7%であった。

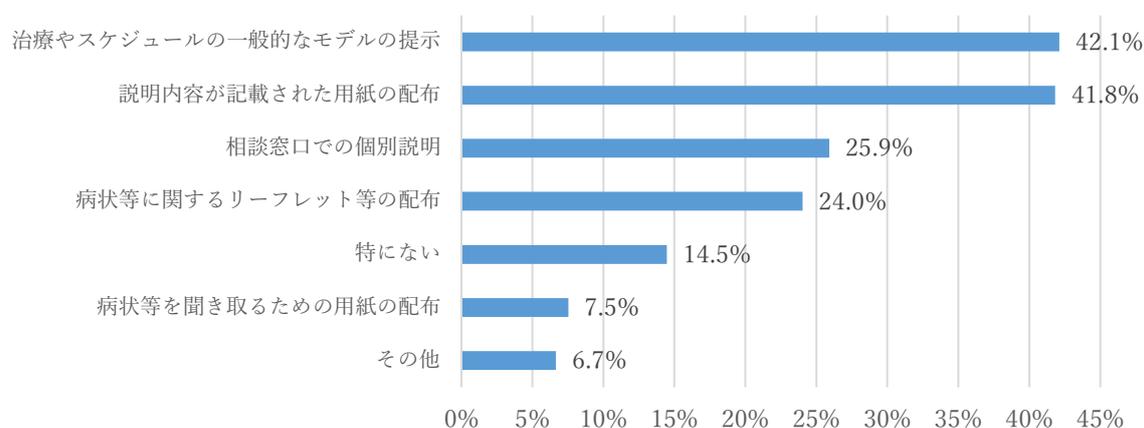
図3-1 病状や見通し、スケジュール等の理解 N=691



#### (2) (問12)病状等を十分に理解するためには、どのような支援等があれば効果的だと思いますか。

患者が自身の病状等を理解するための支援等については、「治療やスケジュールの一般的なモデルの提示」が最も多く、42.1%で、次いで「説明内容が記載された用紙の配布」が41.8%であった。

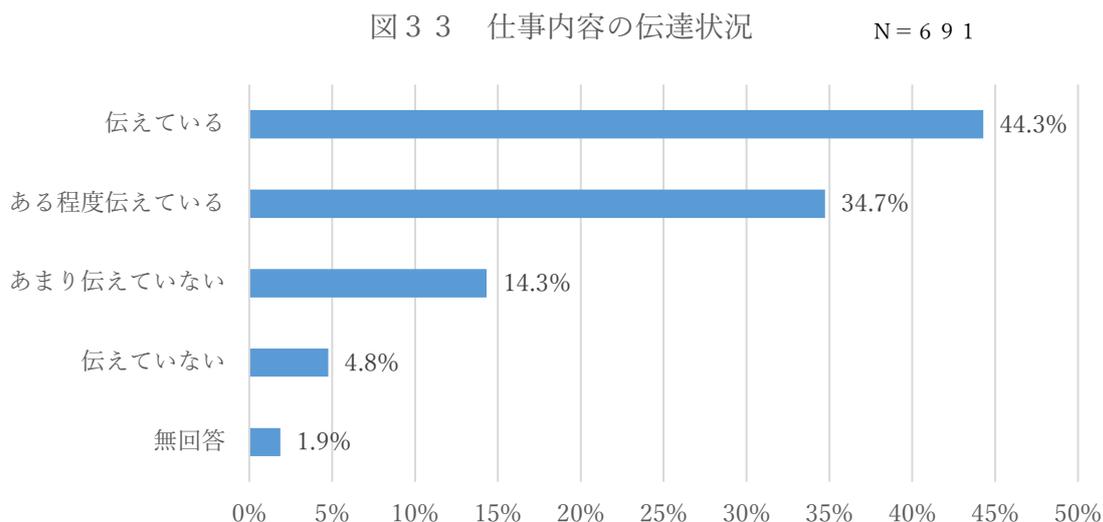
図3-2 病状等の理解のために必要な支援（複数回答） N=691



#### 4 病院と職場間の患者情報の共有

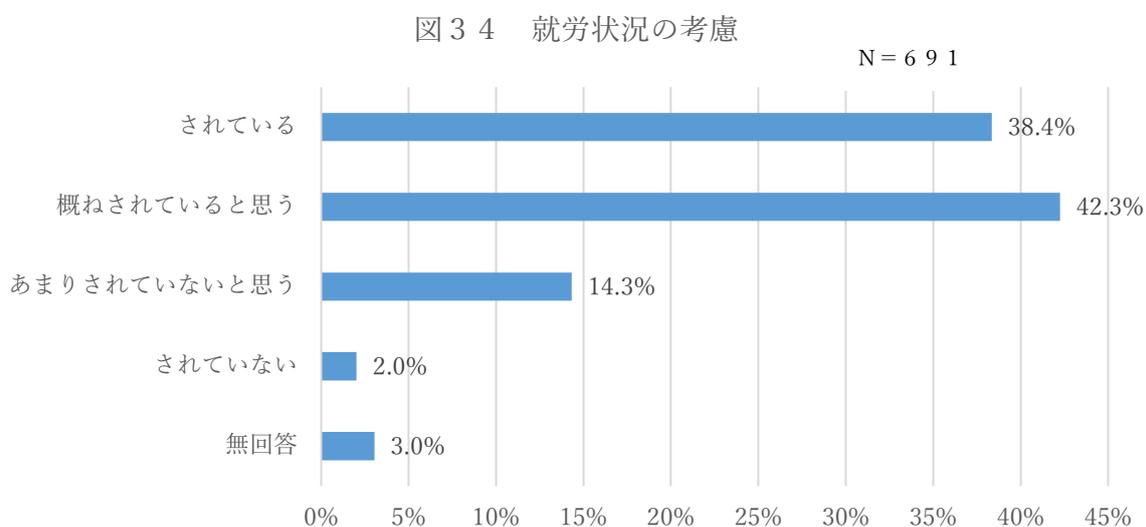
##### (1) (問13)御自身の仕事内容などを主治医など病院関係者に伝えていますか。

主治医への患者の仕事内容の伝達状況は、「伝えている」が44.3%、次いで「ある程度伝えている」が34.7%であった。



##### (2) (問14)主治医等が、病状の説明や治療方針(治療方法、時期、曜日等)を決定する際、御自身の就労状況が考慮されていると思いますか。

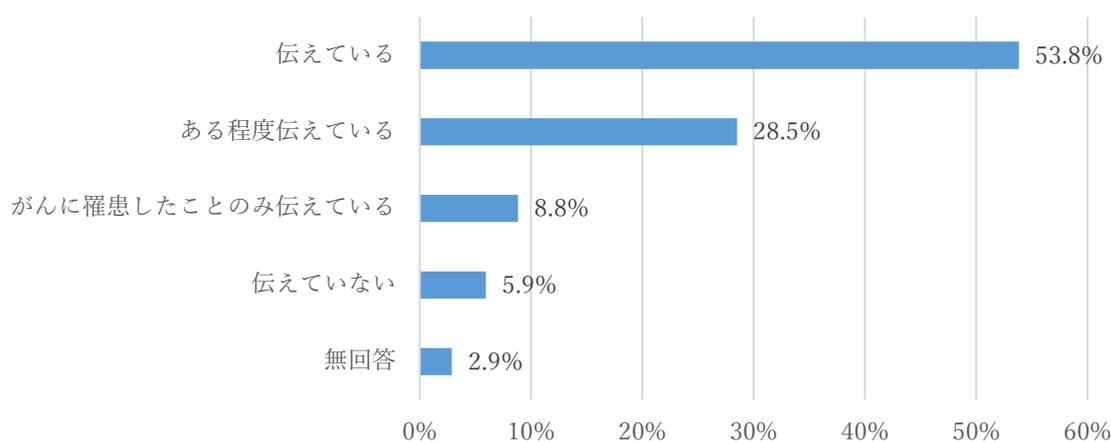
主治医の病状の説明や治療方針の決定の際、自身就労状況が考慮されていると思うかについては、「概ねされていると思う」が42.3%で最も多く、次いで「されている」が、38.4%であった。



**(3) (問15-1)がんに罹患したことや、病状・治療計画、職務上配慮してほしいこと等について職場に伝えていますか。**

患者の病状・治療計画、職務上配慮してほしいこと等について職場に伝えているかについては、「伝えている」が最も多く、53.8%であった。

図35 病状等の職場への伝達状況 N = 691

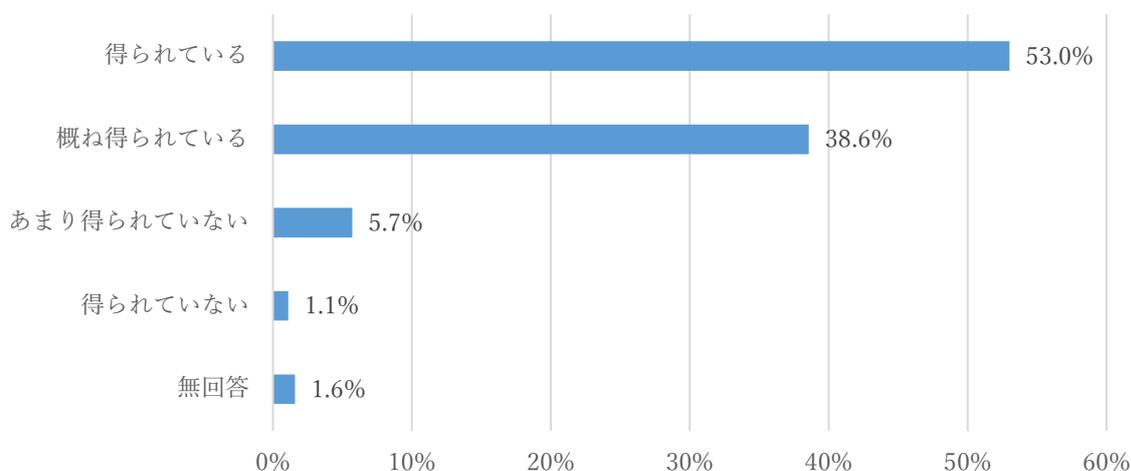


**(4) (問15-2)職場からの職務上の配慮は得られていますか。**

<問15-1で「伝えている」「ある程度伝えている」「がんに罹患したことのみ伝えている」と回答した者への質問>

職場から職務上の配慮について「得られている」は、53.0%、次いで「概ね得られている」が、38.6%であった。

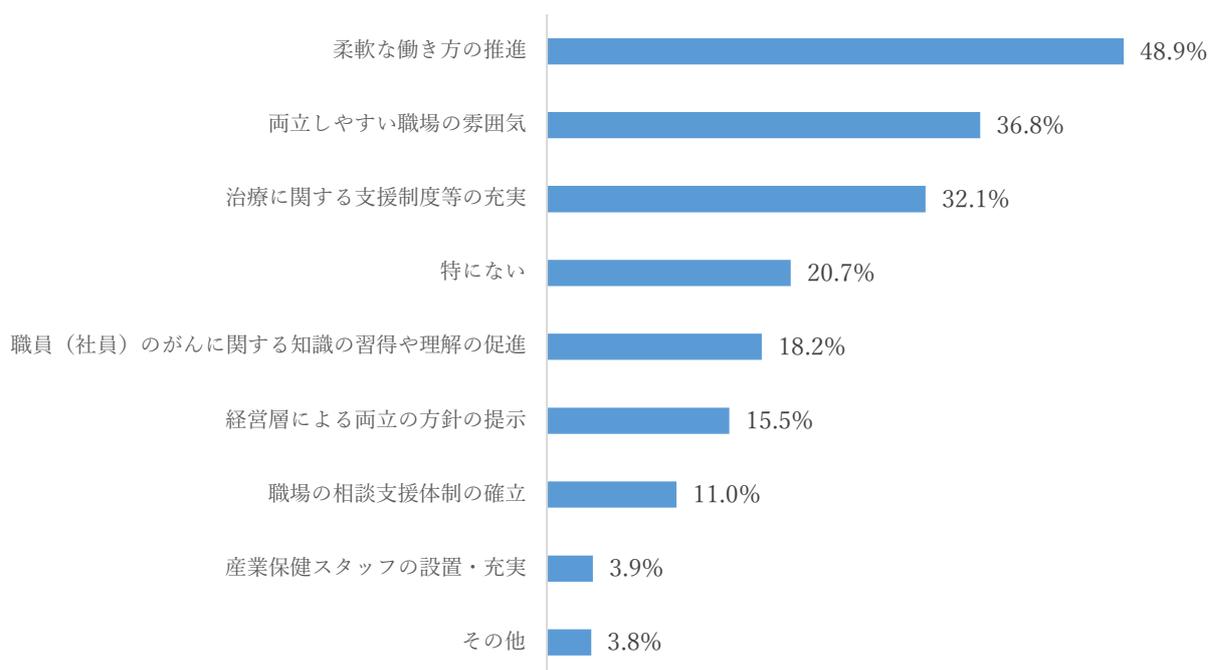
図36 職場からの職務上の配慮 n = 630



**(5) (問16)治療と仕事の両立について、職場に求めることはありますか。**

患者が治療と仕事の両立について、職場に求めることは、「柔軟な働き方の促進」が最も多く（48.9%）、次いで「両立しやすい職場の雰囲気」（36.8%）、「治療に関する支援制度等の充実」（32.1%）であった。

図37 両立支援のため、職場に求めること（複数回答） N=691



## 5（問17）その他、治療と仕事の両立全般についての意見（抜粋）

### （両立についての満足感などプラスイメージ）

- ・柔軟な働ける場所、環境を整えてもらい、感謝しかない。
- ・職場は全て病気に対して理解頂いて助かっている。感染リスクに対しての不安が大きい。
- ・幸い職場は理解が得られ、がん治療しながら、地方都市の支部長を続けることができているが、がん治療というだけで重要な仕事から外される方もいると思う。職場の経営層の理解が必要だと感じた。
- ・テレワーク制度の利用で、柔軟に仕事をこなすことができていると感じている。
- ・私の職場ではある程度理解されていて助かっている（助けてもらえている）が、同じがん患者の人们がきちんと理解されて、思う存分働けるようになれば良いと思う。
- ・お給料も減って治療代もすごくかかるが、両立は自分自身の生きるパワーになるので楽しく生活もできている。
- ・数年前から社として、働き方改革に取り組んでおり、様々なケースに対応できるメニューが増えることが役立つことを実感
- ・個人的な状況として、在宅ワーク中の入院・通院で良かった方かなと思う。また、在宅ワーク可能な職種で良かったとも思う。
- ・職場（上司）の理解が大事だと思う。テレワークという働き方があることで、仕事を続けていける希望が持てた。
- ・職場の人や人事の人にいろいろ協力、指示をいただいて、手術・入院通院治療ができている。コロナで4、5月治療が遅れた。
- ・社会ががん、少数弱者（LGBT）に対して理解する情報も増え、自分は働けていることに幸せを感じる。
- ・通院治療室の看護師さん、薬剤師さん、栄養士さんがそれぞれ日常生活におけるアドバイスを細やかに丁寧に行っていたので、仕事を両立することができた。
- ・がんが治療できる病気になってきて、仕事と両立する必要が出てきたのだと思う。診断が確定する前に病院で「もしがんでも治療できるから、とにかくあせって仕事をやめるのはダメ」とアドバイスいただき、ありがたかった。
- ・私の会社では特例という形で色々相談でき、非常に助かっている。チームには恵まれて頼らせてもらっている。
- ・上司・同僚に病状や治療内容を定期的に報告しているので、協力や気遣いをいただいている。
- ・仕事をする事により張り合いが出来、回復力が早まる気がするのでまわりの理解と環境作りが必要だと思う。
- ・職場の理解はとてもありがたかった。体調に合わせてシフトを決めさせてくれて、皆さんが協力してくれている。こういう職場作りを他でも進めて欲しい。
- ・仕事に就いているという責任感が病気に対する気力になっている。1日でも多く就業

して通常の状態を体験していることを非常に嬉しく思っている。

- ・病気発見時から今まで仕事があって良かった。仕事があるので、病気のことをクヨクヨ悩まず今まで来れた。職場の環境も良く、私の場合はいろいろが恵まれていると思う。
- ・どのようなQOLであっても働ける環境にあることが望ましい。それが、がん患者の励みになると思う。
- ・理解のある職場ではあるが、体制は整っていないので、医師や看護師の前向きな言葉や経験者の話に背中を押されながら暗中模索の日々である。コロナ禍の中、今まで順調にきたことは感謝している。

### **(両立への変え、不安、不満などマイナスイメージ)**

- ・体調と仕事の負荷のバランス、治療とかかる費用の負担、これらを両立させるのは難しいと感じる。仕事 or 治療の2択になりやすい。
- ・乳がん術後、骨転移し、体力的にフルタイム勤務が困難だが、勤労意欲があるにもかかわらず、完全休職またはフルタイム勤務との2択しか提示されず、がん治療中の体力の衰えに配慮がなされない。
- ・自分ががんになって改めて治療と仕事の両立は難しいと思った。精神的にきつくて、体力的にもきついものだと分かった。
- ・治療中は満足に働けなかったので給料が減った。治療にお金がかかるので、仕事も休めず大変だった。病気休暇もあるが、全然足りない。仕方なく両立するしかなかった。
- ・病院、職場共に理解は促進しているが、まだまだ職場においては従業員間で温度差がある。もっと全従業員に認知されるとありがたいと思う。
- ・まだ、日本社会では、病状を会社等にオープンした場合、メリットよりデメリットが多いと思われる。“働きながら治療”が理解されていないと感じる（伝えることで職務を解かれる可能性など）。
- ・復職後今まで通りにスタッフと会話し勤務できるか不安、一人取り残された感がある。
- ・治療方針策定時に仕事の継続について全く考慮されなかった。病院というより医師個人に不満あり。
- ・社内の部署、年齢、応援の可否等全て一律は困難→分類整理が必要
- ・少人数の職場では各役員が理解をしても休みが重荷に感じてしまう。
- ・化学療法しながら仕事をするのは、体調管理が辛い。特に、免疫力が落ちてる中で、コロナの感染症対策もしなくてはならない。
- ・治療のため休職していたが、復職後異動の話がされたことがある。（治療は継続する旨伝えていたが）上長によって、ハラスメントに近い対応をしてくる人がいた。職場で不利な立ち位置にされる。
- ・副作用が出る時なかなか理解されず、根性論で話されることがある。
- ・医師との会話があまりなく現在の状況が良く分からず従っただけである。
- ・ホルモン治療を受ける前と現在では体調の変化があり（うつっぽくなったり、イライ

- ラしたり)仕事と体調管理は非常に大変。また、周囲には何かにつけて「また再発するよ!」と言われることがさらにストレスになることがある。病気であることを職場で理解される以前に、告知しない方が良かったと思うことすらある。
- ・今は休職中だが経済的理由から少しでも仕事に出られた方が良いと考えてしまう。また、仕事に戻った際の柔軟な働き方がどのくらい可能であるのかも不安だ。働かなくとも金銭的支援が受けられる制度があるのなら教えてほしい。ないのなら、作ってほしい。
  - ・正社員でないと入院や通院で休んだ時の保障が全くなかったので大変だった。パートの立場だとなかなか自分の意見を言いにくい。
  - ・毎月の通院だが早期の時間のほかに夕方や夜間もあれば助かるが、都内の大学病院では難しいのだろう。
  - ・今は特に体調の変化はないが、何かあった場合、仕事(シフト)に穴をあけ、迷惑をかけることが不安
  - ・体調が悪くて休みたいとき有休があるのに使えず欠勤になることも
  - ・年下の部下・職員が多いため、あまり理解されず「休んでる間、大変でした」と言われたこともあった。
  - ・仕事を休むことで収入が減少し、生活が厳しくなる。収入が無いと満足できる治療が受けられない。治療費が高すぎる。
  - ・1年単位の契約等の職場では、がん治療など長期にわたる病気の治療と仕事の両立は非常に困難
  - ・職場にはどこまで病状を伝えるべきか?がんになってから職場が変わり(本人としては変わりがくなく)新しく人間関係を作るのはつらかった。
  - ・今のところ両立できていますが、上司、職員が替わればどうなるかわからない。
  - ・病気休暇は無給にもかかわらず、診断書の提出が必要であり、私事欠でもかまわないと言うと、処分の対象になると言われた。
  - ・もし、再発した場合や治療が投薬以外で必要になった場合、継続して仕事を続けられるか不安はある。社会全般で多様な働き方を受容できると良い。
  - ・上司の配慮で十分休みはもらえたが、手術後の仕事復帰はすぐに以前の仕事内容と同等で体が辛くても配慮してもらえなかった。配慮してほしいことは伝えていたが、直属の上司が気に止めてくれず休憩すら取れなかった。人手が足りないのも原因のひとつ。人が増えると治療と仕事の両立もしやすくなるかもしれない。
  - ・現在は直接の上司の理解があるが、社内の、全社的に理解があるわけではないため、部署異動等があると、同じように続けられるか不明。まだ治療と仕事の両立は社会的に認められてないと感じる。
  - ・自宅、自営のため病気治療第一にできる自由があると思います。サラリーマンでは不可能ではないでしょうか。健康な人でも大変な労働環境なのですから。
  - ・治療中の体調や通院の大切さ、病気になったストレスなどを考えると、副作用のことなど詳しく説明したいが、感染拡大中の不安定な社会の中で、あまり自分が不利な人

材にならないように、控えめに報告して、リモートの状況の中で何とかやりくりして乗り越えようと思っている。

- ・上司の理解は得られたが、同僚の理解はあまり得られない。健康な人は立場が上。フルタイムで働いていても、病気を抱えた人は立場が低いとみられている。
- ・両立していくためには職場の理解が必要かと思う。病状、体調そして本人の希望。「昇進や上を目指すのはやめて、大人しく言われたことをやりなさい」という上層部の考えが理解できない。
- ・ひとり親なので、仕事を休むと生活できなくなるので、無理して働いている。抗がん剤の副作用で痛みを耐えながら働いている。
- ・年齢的なこともあり職場に言えず、上司のみに伝えている。休憩所などの設備がないので、出社が少し不安、また病気のための制度は少なく、通常の有給を使っているので不足しそうである。もっと充実すると良いと思う。
- ・派遣という仕事柄、がんであることを伝えると仕事はまわってこないと思い伝えられない。再発した場合、職場に迷惑をかけてしまうことが一番心配
- ・働き方改革で年次休が取りやすくなり、通院検査は全く問題なくなった。会社で、がん先進医療補助制度もでき、理解が深まっている。しかし、がんになった際、会社に報告する、しないのルールはなく、職場の配慮はほしいが、昇格等に影響を受けそうで私は伝えたが、考えるところはある。
- ・仕事を休んでいる間、人員を増やしたのは良かったが、復帰してから自分の位置がなく、仕事もなく、職場にいづらくなった。薬の副作用が復帰してから出てくるものもあり、支障が出て、また、仕事がしづらく居づらくなった。がんは偏見があり、先が見通せないと判断され、いつでも辞めてよいような雰囲気を感じるようになった。手当も減給され、生活に支障がでる。
- ・派遣社員のため、再発や転移など起こった場合、今後の仕事を紹介してもらえないのではないかと心配している。
- ・やはり、がん患者の仕事は厳しい。日々体調が違うので。理解があっても何も言えない。できたら都の病院でがん患者限定で単発パートみたいな雑用でも低賃金でもいいので、あれば、安心して働ける。

### **(両立についての提案、要望)**

- ・直属の上司に罹患を告げたが、同僚は知らない。業務配置への配慮を指示する制度を公的に定めてほしい。
- ・がんが進行して仕事ができなくなった時の支援等があるのかないのか知りたい。
- ・産業医の質的向上を熱望する。
- ・職場での（少なくとも、同じチームの人に）情報共有をしてほしい（現状では上司止まり）。公表しないように言われていて治療に行きづらい。
- ・仕事において柔軟な情報交換を行いたい。
- ・役員であるので柔軟な対応をさせてもらえるが、一般社員は難しいことが多い。会社

- としての制度の充実と、保険や社会保障制度の充実が必要である。
- ・厚労省より特定健診や重症化予防 etc 推進するよう、通達が出ているが、企業側として（がん予防、早期発見、早期治療のため）通院のための休暇（がんは通院しながら治療する時代）制度は充実されておらず、有給を使用して通院しているが、有給にも限度がある。子供の保護者会や体調により会社を休まざるを得ない際は、欠勤となり収入も減る。もう少し配慮してほしい。
  - ・出社できない期間のケアとして会社側の産業医等とのコミュニケーションが欲しい。理由として、やはり、焦り等メンタルケアがあると助かる。
  - ・傷病休暇制度はあるが無給となり欠勤となってしまうので、結局は有給休暇を取得するしかないが、会計年度任用職員は有給休暇が少ないため、がん治療を長期間続けていくとどうしても欠勤となってしまう。傷病休暇についても有休であることが望まれる。
  - ・仕事のシフトは決まっているのでそれは変えることはちょっと難しい。先生の御都合もあるでしょうが、曜日もう少し考慮して頂けたらありがたい。仕事をしなければ生活がしていけない。
  - ・難しいとは思いますが、患者のプライバシーに配慮しつつ、両立への方法を考えてくれる人が職場にいると大変助かる。私の場合、患者になり頭が一杯で仕事のこと（未来）まで考える余裕が全くない中、たまたま相談した人に「テレワークにしてはどうか」と提案されてとても救われた。そういう方がいてくれると、どれだけ希望になるか知れない。
  - ・いわゆる AYA 世代後半でのがん治療のため、子育て、職場での責任、家事、さらに介護といくつも責任がかかっていた。そのため 1 度休職した。ただそういった制度がないと潰れてしまう人は多いだろうと感じる。がん治療は長期にかかるため休職できる制度は東京都としても推し進めてほしい。
  - ・休みを取りやすくすることで会社に病気を伝えていない人も治療に行きやすい。制度の充実も必要だと思う。
  - ・がん＝死ではなく、生きられる場合も多々あるということを社会全体に啓蒙していただきたい。職場等の支援がなければ、通院入院は厳しいので、がん治療のための休暇等について制度化していってもらえると支援を受けるのに患者も職場も納得して実施できると考える。
  - ・私自身は 2 カ月に 1 度の通院で同僚の理解もあり休むほどの副作用はないが、もし、もっとつらい治療で同僚も理解してくれない人たちだったらと考えると、就業規則への支援制度などの明記が欲しい。もう少しで定年。再就職時には伝えるべきか、伝えた場合、不利になるのなら、このまま今の職場に残るか考え中。不利にならないように PR してほしい。
  - ・障害者雇用制度はあるが、がん患者を理由としてその配慮した雇用はあまりないので制度としても充実させてほしい。まずは東京都として実施してほしい。

- ・治療が進むにつれ副作用も重くなっていき出来ない仕事も出てくる（立ち仕事など）。都や区などで事務的な仕事をさせていただけると助かる。
- ・血液のがんに対する知識を持つ職員が少ないため、健康な状態の方と同じ仕事を求める人もいるため、知識の普及は必要
- ・私は上司に病名を伝えておらず、配慮してほしいとも伝えていないが、同僚から病名を聞かれて伝えたところ、同僚から上司に配慮すべきだと強く訴えたようで、多大な配慮をされていると思う。がんに関わらず、見えにくい疾患への配慮を望む。反対に、がんだからと言って、特別扱いせず、忖度せず、誰でも働きやすい社会を望む。
- ・職場の理解支援も必要だが、治療費（高額療養費利用も含め）に対する公的扶助の充実を望む。
- ・配慮すると上司等が言ってくれる割に普通の業務量を調子が悪くても割り当てられる。私はダメな時は言いますが、言えない人もいるので、何らかの決まりとか制定してほしい。
- ・土日でも放射線治療ができれば楽なのに、と思ったが、医療関係者の方々の負担を考えると何とも言えない。
- ・がん治療よりも職場の理解が得られないことが、一番の精神的負担なので今後は支援制度が充実してくれることを願う。
- ・仕事と治療の両立は重要な課題であるが、がんに罹患しているか早期に発見する仕組みを充実していただくことを期待する。また働き盛りの年代の人に対しては十分な社会の支援が必要と考える。
- ・仕事をしながら、がんの治療という考え方はまだまだ少なく、仕事を辞めてや長期に休んでといった考え方の方が多くいらっしゃる、社会にもっと正しい考え方が広がって、病気とともに生きていく支援制度が治療と合った形になってほしい。
- ・たまたま両立に関して理解してもらえている職場なので不満が無いが、化学療法の副作用で出勤できないなどを理解してもらえず、辛い思いをしている人がいる。都等で、がん治療等の理解を広めるシステム、講義等を開催し、会社員に受講してもらいたい。
- ・フルタイムでないので、通院、入院手術に年休を使ったり、欠勤で給与が減額となったりしている。病気休暇や通院のための柔軟な働き方を認めてほしい。放射線は毎日通院するので。
- ・どうしても収入面が減ってしまうので、その補助金とかがあればいいと思う。
- ・職場、病院が自宅近くにあると精神的にも肉体的にも楽であると感じる。
- ・会社の方で治療と仕事の両立全般についての研修をすべき。人事担当は、特にうけるべき。
- ・テレワークと半日休暇を同じ日に取得できないか会社に確認したら、「そのような制度はない」と回答された。治療のため、半休を取りたいのですが、会社の制度を変更してもらえそうな働きかけをしていただけないか。
- ・柔軟な働き方の推進による生産性の向上のためにも両立しやすい雰囲気、環境づくりが望まれる。

- ・化学療法や放射線治療での通院のための特別休暇制度を作ってほしい。有給休暇が不足し、そのために心労が増えないような支援制度がほしい。
- ・がんにかかると仕事ができなくなる。いつ退職するか(いつまで会社に居続けるのか)という考えを持つ人が多く、その為に周囲に治療のことを言えない。大変な病気であるけれど、治療によって普通の生活を取りもどせること、そういう努力をしている人がいることをもっとTVCMや医療、国、さまざまな所から発信してほしい。自分が、がんになってはじめて感じた。
- ・経営層の理解と具体的施策(治療/通院への許可・配慮)が必要
- ・治療計画や体調に応じてフレキシブルに働ける制度を期待している(もっと働きたい時は時短勤務で残業が禁止されており、治療日には有給休暇(使い切れれば欠勤)を取る必要があるのだ)。
- ・私は周りに恵まれながら生活できているので、特にないが、もう少し病状が重い方は、社会とのつながりが助けになる事が多いと思うので、何かそれに伴う会社への支援金(助成金)とが充実すれば休みやすくなったり、家で、仕事もできる体制が作りやすくなると思う。
- ・手術、治療に関しての特化した有給制度を作っていただきたい。
- ・治療に時間をとられ、経済的に苦しい。副作用等で休みがちなることもあり、一時的でも支援を受けられる制度があればと思うが、どうすればいいかわからない。
- ・フレックスタイム制度だと年間40時間限定で時間休取得に上限があり、もっと柔軟に対応できるより通院治療との両立ができるので、改善してほしい。
- ・業種によると思うが仕事の量・質について、自由裁量が持てれば良いかと思う。
- ・手術や入院の場合、疾病休暇対応できるが、欠勤扱いになる為、全額保証にならない。また、通院についても有給を使用している治療内容(抗がん剤治療等)により対応して欲しい。
- ・放射線治療など何度も通院が必要な場合は、特別休暇(自身の有給休暇ではなく)を認めるよう、通知してほしい。
- ・都として企業、職場に対して支援制度拡充の通知等を出してほしい。がん治療は手術だけではない。抗がん剤治療をしながらでも両立できる社会にしてほしい。
- ・個人事業主ですので会社などに相談する形ではないので国としてサポートしてくれる相談所などあるといいと思う。
- ・収入面の不安や働き方に対する不安はある。高額療養費だけでなく助成金(ウィッグ等)、給与補償などがあると良いなと思う。
- ・診療日に会社を休む時は特別休暇で休み扱いにならない制度を作成してほしい(わざわざ有休をとって検査に行っているため)。
- ・個人のお店で働いているので自分のせいで迷惑をかけるし、あまり休めない。給料が減って病院にかかり生活に困っています。どうにもならない、どこに相談すればいいかわからない。この先とても不安

- ・がんに関する理解の促進は進めてほしい。がん検診の必要性などは会社の健康診断で聞いたことがない。
- ・仕事時間がある程度自由に調整できたら安心。その為の法的な支援制度があると、今後増加するがん患者の就労に有効だと思う。

### (その他)

- ・すでに根治は全く望めない段階でのがん発覚だったため、職場では秘密にしてほしいと希望し、わずか数名にしか伝えていないため、退職を伝えるタイミングが大きな悩みになっている。
- ・多面的な働き方改革（時間とか休暇といった一面だけでなく）が必要だと思う。
- ・がん患者によるがん患者のための会社があれば良い。病はなってみないと本当の理解は難しい。能力は変わらない。でも働きたい。
- ・制度、環境はもちろん重要であるが、自分自身がこれからの生き方、働き方について知識を得ながら考え、周囲に助けを求めたり、相談できるようになることも前提として欠かせないと痛感している。
- ・がんのみならず、病気や家族の介護、育児等、周囲の理解が社会的に進むことが大切。個人の努力だけでは難しい。学校教育に取り込まれることを期待
- ・がん拠点病院では待ち時間（予約していても）が長く、半日以上仕事をあけて受診するが（最高で3時間待ったことも。会計窓口が終わってしまう。）病院には改善してもらいたい。
- ・自身が代表取締役のため、身をもって両立について考える。がんに限らず、病気になった時、中小零細企業にとって手厚い支援は難しい部分がある。が、病気にはなりうるので、リスク対策として、できることを考えていくしかないかなと思う。
- ・通勤時等の外出時にヘルプマークとまではいかないが、緊急の時、思うように動きがとれないことを伝えられる手段が欲しい。
- ・研究職なので以前から裁量労働で働く事ができており、コロナ、病気でもさほど仕事に差し障りはありませんでしたが、理想的には“育児と仕事の両立”程度まで、がんでも制度が広まるといいなと思った。
- ・生命第一なら治療優先しかない。
- ・私は職場でも治療のことをオープンにしていますが、私の周りのがん治療している友人は職場に話していない。心配をかけたくない、どう思われるか気になるそう。治療している人もそれぞれ考えがあり、難しいと思った。